

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立玉川小学校

校長名 山口 行子

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	
学校教育目標	学校経営の方針	
豊かな人間性とたくましく生きる力をもった児童の育成	本校の伝統と児童・地域の実態を踏まえ、社会の変化に対応して充実した未来を築くことをめざして、豊かな心をもち自己の目標に向かって努力したくましく生きる力をもった児童を育てる。そのために、全教職員と保護者・地域が信頼と和を深め、一人一人の個性と創意を生かして協働し学校の教育目標の具現化を図る。	
今年度の重点目標		

【ひびきあう心】自他を尊重し合い、活動の主体性を高める取組の推進
 【ひびきあう学び】主体的で対話的で深い学びのための指導の工夫
 【ひびきあうこだま】人や自然との関わりを大切に活動の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【ひびきあう心】自他を尊重し合い、活動の主体性を高める取組の推進	2・3	○居心地の良いクラスづくり ・児童アンケートの結果などを活用した学級経営の展開 ・あいさつや望ましい言葉遣いによるよりよい人間関係づくり ・年間を通じた人権感覚を養う活動の推進 ・互いの良さや多様性を認め、支え合う力の育成 ○個に応じた支援の充実 ・児童アンケートや児童教育相談を基にした共感的児童理解の推進 ・教育相談コーディネーターや児童指導担当を中心とした児童理解と支援の充実 ・スクールカウンセラーやこころスマイル支援員、関係機関との連携 ・困り感・学びにくさを抱えた子どもたちへの適切な指導・支援 ○児童の主体性を育む活動の推進 ・活動の目的意識の明確化 ・自主的・実践的な態度を育てる学級活動や児童会活動の工夫、充実 ・縦割り活動、異学年交流の推進 ・『あいさつはこだまする』明るいあいさつが響く学校づくり	○定期的に児童アンケートを実施することで、児童の実態を把握することができている。 ○毎週の児童指導の打ち合わせにより、各担任がどのように児童を見て取っているかが伝わる。今後も情報を共有して全職員で児童支援していきたい。 ○給食の時間を複数の教員が交替で指導にあたることで、担任だけでは気付けない児童の様子を共有することができた。また、児童の些細な変化に気付けるようになった。 ○道徳の時間を中心に、いじめなどを許さない、認め合う仲間づくりの指導を行った。 ○教育相談コーディネーターをはじめとして児童指導にあたり、職員の連携がよくとれている。 ○児童へのアンケート及び個人面談を通して児童理解を行うことができている。 ○ふれあいルームの充実や支援員の活用がされている。また、支援員が児童と良好な関係を築き支援にあたることができている。 ○体育の学習を中心に異学年交流を行うことができた。児童同士の関わり合いや互いを思いやる場面を見ることができている。 ○縦割り清掃、登校班で高学年を中心に互いを思いやる場面が見られた。 ○人権旬間の取組(しあわせの海、講師派遣)が玉小の児童に合っていた。 ●廊下歩行、名札の着用などのルールも守れるようになるとよい。	→廊下歩行については、委員会の活動により意識化が進んでいるものの十分とは言えない。今後も学級指導、委員会活動で声掛けを継続していく。

<p>【ひびきあう学び】主体的で対話的で深い学びのための指導の工夫</p>	<p>1</p>	<p>○わかる授業・楽しい授業 ・児童が学ぶ目的を認識し、学んだことの意義を実感できるような学習活動の充実 ・異学年や外部と連携した学習の工夫 ・チーム学年経営による合同授業の推進 ・特色ある校内研究の充実 ・学び方を学ぶ学校図書館教育の推進 ・GIGAクール端末(手段)を活用した指導の工夫 ○基礎学力の定着 ・読み・書き・計算の学習内容の定着 ・個に応じた学習支援の推進 ○家庭学習の習慣化 ・家庭との連携の強化 ・音読、宿題、自主学習の習慣化・個別最適化</p>	<p>○これまでの学習を復習してから、現在学習している内容に取り組むことで、理解を深めることができた。 ○担任外によるモジュールの時間の国語の授業が特別感もあり、また復習にもなり、児童の学力向上につながった。 ●モジュールタイムは貴重な授業時数なので内容を充実させたい。 ○TAMATERA(校内職員研修)やウオッチングウィーク(教師による授業参観)なども益々活用して、教師も学びが楽しいと思える良い授業を目指したい。 ○ペア学年だけでなく、様々な学年の組み合わせで合同授業が行われ、成果が上がっていたように感じる。情報共有し、よかったものは次年度につなげられるようにしたい。 ○ペア学年と協力しながら授業づくりが行えた。 ○2学年合同でやることで、児童・教師の人数も増えて、意見を出し合いながら楽しく授業を進めることができた。 ●自分の考えを進んで伝えたり、表現したりすることに抵抗なく、発言ができるようになったとよい。 ●教師の指示が児童に上手く伝わっていないと感じることもある。 ○家庭学習充実週間は保護者にも定着している部分がある。取組が伝わっていない家庭には持続的にお知らせしていきたい。 ○児童の実態に合わせた内容で家庭学習を進めることができている。 ○学期の途中に家庭学習充実週間があるのが家庭と児童にとって励みになりよい。 ●課題をしてこない児童については、学校での学習の取組をはじめとして、少しずつ習慣付けていく。 ●課題の出し方や、宿題の必要性というところから協議する必要があると感じる。</p>	<p>→チーム学年経営や合同授業の成果を、職員は一定程度実感している。次年度は、保護者にも取組の意義や成果を周知していく必要がある。 →課題に感じていることをTAMATERA(校内職員研修)のテーマに取り上げて、授業力を向上させたい。 →家庭学習を「やりたくない思いを抱く事」があることは認め、各学年の発達段階や児童の個性に合わせて、今後の宿題の内容や声のかけ方を工夫していきたい。 →次年度も家庭学習充実週間や自主学習等、学校全体の取組を充実させる。</p>
<p>【ひびきあうこだま】人や自然との関わりを大切にする活動の推進</p>	<p>1・3</p>	<p>○豊かな自然を生かした活動の展開 ・年間を通した農業体験活動の推進 ・児童の主体性を育む農業体験、自然体験活動の工夫 ○人との関わりを生かした活動の推進 ・外部指導協力者との目的意識の共有 ・地域住民と児童が学び合う活動の工夫及び改善 ・地域との交流を生かした活動の推進 ○安全教育の推進 ・登下校指導や子どもの危機意識を高める工夫(日々の指導) ・防災教育の推進 ・安心安全な学校環境づくりの推進 ○特色ある教育と情報発信(小規模特認校) ・保護者、地域との連携を深める学校、学年、各種たよりの充実 ・保護者、地域との連携を深める学校ホームページの工夫</p>	<p>○地域の方々と連携して、農業体験活動を行うことができた。また保護者の方にもボランティアで収穫のお手伝いをしていただいた。収穫した作物は、家庭で調理・試食、5年生の家庭科の調理実習で調理することで、収穫の喜びを共有することができた。 ○児童の主体性を育む授業づくりを行い、それを地域の方々にサポートして頂く形で活動を進めることができた。また、地域の見学先(お店探検)や講師の方にご協力してもらい、学びを深めることができた。 ●さらに活動を充実させたり、精選したりしていきたい。 ○定期的に避難訓練や下校指導を行い、児童の安全意識を高めることができた。新たな取組として、避難訓練の様子を消防の方に見ていただき、指導・助言により、避難訓練の見直しを行うことができた。また、毎週の一斉下校を行い、担当と高学年からの安全に関する意見からも、子ども目線での安全意識も高めることができた。 ○交通安全教室を行い、トラックの内輪差や死角について視覚で確認し、安全意識を高めることができた。 ○職員の不審者対応訓練を行い、危機意識を高めることができた。様々な形で今後も訓練を行っていききたい。 ●歩道の歩き方など交通ルールを繰り返し指導はしているが、まだ完全には定着していない。継続指導が必要である。 ○ホームページは、少ない職員の中、行事等を中心に、こまめな更新を心がけている。今後も全職員で活発な更新を進めていきたい。</p>	<p>→その年の児童の実態や今後の児童数に合わせたものを見極めて計画、実行するようにしていく。 →交通ルールについて全職員共通理解のもと、帰りの会などで引き続き繰り返しの指導を徹底していく。また、児童が自ら安全について考えることができるように指導をしていく。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

自然や人との関わりを生かした教育活動が充実しており、今後も地域とのつながりを大切にしていくことが望まれる。保護者ボランティアについては、行事ごとの単発募集や早期周知により参加しやすくするとよい。登下校時の安全面ではヒヤリハットも見られ、学校・家庭・地域が連携した注意喚起や見守り体制の工夫が必要である。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

本年度も、地域の方々や外部団体の協力を得ながら、温かな交流の中で、児童一人一人の学びと成長を支える教育活動を進めることができた。チームでの連携や対話を重ねる中で、本校の特色を生かした取組にも広がりが見られた。次年度は、こうした成果を基盤に、現在の豊かな教育が今後も持続可能なものとなるよう、調整力を生かしながら、工夫と改善を重ねていく。